

## 連載9 「おねしょの理由」

「おねしょー夜尿」、小さい頃であれば誰でも経験のある出来事です。小学生になっても毎晩のようにあるようなら、ちょっと心配・、泌尿器系の病気も含めて、真剣な検討が必要なのかもしれません。が、年令を重ねた後（5才以上）の、まれにある「おねしょー夜尿」だったら、その時の本人の気持ちを推し測るヒントをくれる大切な行動となります。

明星学園では、「おねしょー夜尿」は、心の中で分離不安が高まった時に生じる身体反応であると考えています。明星学園で暮らす方々は、皆大人の年令になった方ですから、大人になってからの「おねしょー夜尿」の原因を考える時、重度の知的障がい者であることの身体的な未熟さを原因の一つであると考えなくてはならないのはもちろんですが、明星学園で生じるエピソードの数々は、その身体的な条件よりも心理的な背景の方がはるかに大きいことを教えてくれています。

Aさんは、20才を過ぎた頃、今までずっと飲んでいた「みそ汁」が実は嫌いだったことをご両親に伝え、それをご両親に承認してもらい、「みそ汁」を飲まなくてもよくなった時から「おねしょー夜尿」が止まりました。自閉症で味覚に障がいのある方にとって、「みそ汁」は私たちの想像以上に「しょっぱかった」に違いありません。

ずっと美味しそうに？飲んできた「みそ汁」を止めることは、ご両親に怒られる、嫌われる気持ちを生じさせたのでしよう。分離不安の高まりによって「おねしょー夜尿」が生じ、両親の承認という安心を得て、親とのつながりを再確認できたことで「おねしょー夜尿」が止まったと考えることができます。

Bさんは、40才を過ぎた頃、今まで全くなかった「おねしょー夜尿」が始まりました。その頃、Bさんは、今までご機嫌で参加していた運動会などの行事に、今まで通り参加するのか、勇気を出して参加

しないとするのかを悩んでいた時期でした。というのは、もちろんみんなと楽しく過ごすことは大好きな彼女なのですが、自閉症の障がいがあるがゆえに、行事のタイムスケジュールの理解が困難であったり、運動障がいにより歩行時のわずかな段差でさえも怖いことで常に緊張感高く移動しなくてはならない状況だったのです。タイムスケジュールの進行や段差に躓くたびに大声が出てしまうB子さんにご両親も苦慮していたに違いありません。Bさんの「おねしょー夜尿」は、ご両親に行事には参加したいところだけ参加するを伝え、承認をいただいたことでピタッと止まりました。ご両親が来園する行事にフル参加をしないという決心を伝えることは、Bさんの分離不安を強烈に高めたのでしよう。

さてCさん、生まれてこのかたずっと坊主頭だったヘアスタイルを変えたいと考えたときから「おねしょー夜尿」が始まりました。実はCさんの実家は、お寺です。坊主頭に決別することは、ご両親との縁を切るくらいの決心が必要なことだったでしよう。相当の分離不安の高まりだったことが想像できます。CさんもAさんやBさんと同じように、ご両親の承認を得ることで「おねしょー夜尿」は少なくなっていました。

親の期待を背負いながら生きてきて、その期待を裏切るような自己選択をしようとするとき、分離不安は高まるのですが、それは、私たち定型発達の者であっても、重い知的障がいのある方々であっても変わらない真実なのです。「ことば」によるコミュニケーションツールを持たない彼らは、それを身体的な症状として私たちに伝えてくれます。親を乗り越えることが自立の一部だとしたら、「おねしょー夜尿」は、今こそ自立のチャンスが巡ってきていることを教えていると考えることができます。